

# 生涯学習における 10 年間の情報技術教育への取り組み ならびに成果検証

石田 富士雄, 辻 明典

徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部

## 1. 概要

徳島大学開放実践センターにおいて、生涯学習の一環として情報技術に関する公開講座を開講している。本稿では、10年間のまとめとして、受講生の要望に応えられる講座プログラムの開発、毎回のアンケートによる講座内容の改善、理解を深めるための支援体制など、これまでに実践してきた取り組みについて述べる。最後に、公開講座を通じて得られた経験をもとに成果の検証を行い、今後の展開について述べる。

## 2. 講座の目的・内容

生涯学習の推進を目的として、一般の方を対象に、デジタルカメラやビデオを使用して得られたデジタルコンテンツを活用する講座を実施している。講座は、3講座あり、春夏、秋冬の2期に分けて開催されている。講座の内容を次に挙げる。

### (1) デジタル写真入門 (春・夏) (定員 20名)

デジタルカメラの動作原理 (イメージセンサ、フォーカス、ズーム等)、パソコンへの保存、画像の閲覧・整理・印刷、写真の応用

### (2) デジタルビデオ編集 (春・夏) (定員 10名)

デジタルビデオの操作、映像の編集・加工 (タイトル・テロップ)・保存、音声の編集・挿入

### (3) デジタル写真応用 (秋・冬) (定員 20名)

写真加工ソフトによる画像の補正、加工・合成、画像の複製、加工された画像の応用

いずれの講座も、自分自身でデジタル機器 (カメラ、ビデオ、スキャナ、プリンタなど) の操作、コンピュータの取り扱い、ならびにソフトウェアを使いこなせるようになることを目的としている。

## 3. 講座内容改善への取り組み

本講座では、受講生の年齢構成や進捗などを考慮して、講座毎に最適なオリジナルテキストを作成して配布している。オリジナルテキストを作成する理由は、市販のテキストでは、ほとんどの場合、分量が多すぎたり、途中の操作が飛ばされているためである。オリジナルテキストを作成する際の注意点を次に挙げる。

1. 毎回の目的を明確にする。
2. 時間内に終了する内容にする。
3. 操作順をはっきり記述する。
4. 文字をみやすくする。
5. 分量は必要最小限にする。

テキストを作成するときの大前提は、受講者の立場にたち、アンケート等で得られた受講者の方のニーズを反映させることである。生涯学習という場であるため、比較的高齢の受講生の方が多い。そのため、講座内容は、受講者の集中力、操作進度、記憶力などの観点から、各回毎に完結する方が望ましい。同じ内容で2回、3回と続く場合でも、1回毎に成果が確認できることが求められる。講座内の説明や操作は、できる限り簡潔に行い、少ない情報量で多くのことが伝えられるよう心がける。また、講座時間中は、特に全体の流れを重視する。そのため、個別の質問、要望や講座の改善点などに関しては、毎回アンケートを実施、またメールにて投稿して頂いたり、講座の時間外などで対応できるよう多くの窓口を設けている。さらに、本講座では、講師とアシスタントに役割を明確に分け、各担当回毎に交代している。講師は、講座の説明や進行に集中し、アシスタントは、講座中の質問や要望に対して個別に回答する。これにより、講座の全体的な流れを止めることなく受講生からの個別の質問にも対応できるように

なる。この対応を行うには、講師、アシスタントともに、講座の内容や進行、講座時間中の各受講生の進捗などを注意して観察する必要がある。その上で、受講生一人一人にあったきめ細かな対応が取れるようになる。講座は、プレゼンテーション資料とテキストにより進行し、講座内容の説明とコンピュータの操作の割合が4:6となるよう、講義と演習とのバランスに配慮している。また、講師をする際には、次のことに注意している。

1. 声は大きくはっきりと。
2. 文字は大きく読みやすく。
3. 提示する情報は最小限にする。
4. 同じ内容を少し変化させ繰り返す。
5. 時間内に余裕を持って完了する。

講座時間中、受講生からの質問はいつでも挙手により受け付け、アシスタントは講師と連携して個別にサポートを行う。講座時間内に対処できないときには、前述のアンケートやメールに加え、講座時間より30分程度早く教室に入り対応する。

#### 4. 生涯学習教育の効果検証

講座内容の改善を目的として、毎回、受講生に簡単なアンケートに答えて頂いている。アンケートの内容は、その回に実施した講座の内容に関する項目および講座に対する要望である。アンケートより抽出した受講者の年代分布を図1に、10年間の受講者数の推移を図2にそれぞれ示す。

図1の年齢層のグラフからもわかるとおり、60代以上の方が多い。普段接する学生とは違い、年齢、経験、理解度、習熟度などに大きな幅があるので、講座内において常に受講者全体の理解度が同レベルになるよう注意して講義を行っている。

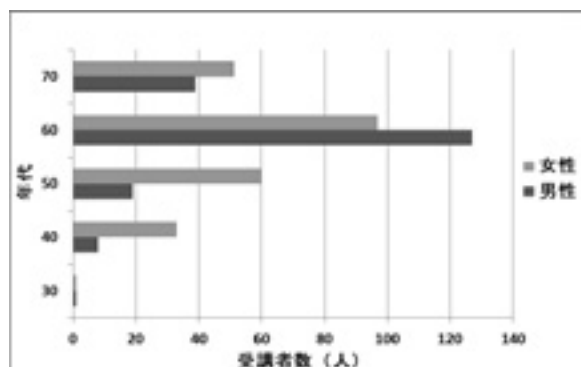


図1 受講者の年代分布 (有効回答率 84.6%)

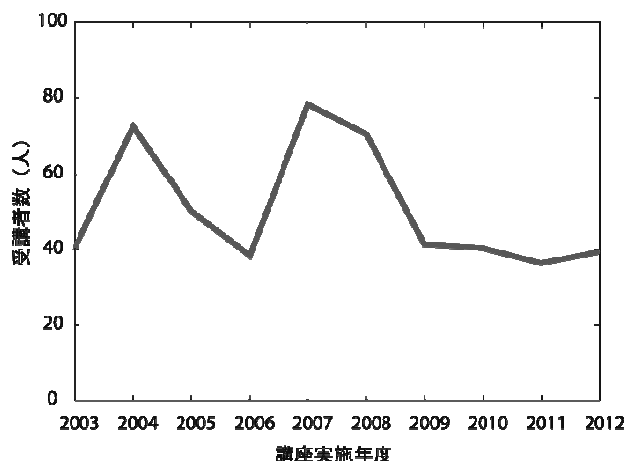


図2 受講者数の推移 (2003年～2012年)

図2の受講者の推移は、各年度に実施した3講座の累計である。10年間、受講者数は減少することなく一定の基準(40名以上/年)を保持しており多くの受講者の方に支持されている。本講座はこれまでに延べ「508名」の方に受講して頂いており、アンケート結果より、受講生の中には講座内容に興味を持ち複数回受講される方や発展した内容の講座開設を要望される方が多数いる。また、本講座の修了生の中には、県の地域ボランティアとして人材登録し、デジタルコンテンツを活用した広報誌を作成するプロジェクトに参加されている方もいる。このように、講座修了後の受講生の積極的な取り組みや様々なフィードバックから、本講座を受講したことによって得られた知識や経験が、地域社会に有益に還元され、生涯学習を支援する講座として円滑に機能していることが確認できる。

#### 5. まとめ

近年の情報技術の進歩はめざましく、講座開設当時は高価で入手困難なデジタル機器やコンピュータが、現在では安価で容易に入手できる。しかし、最新のデジタル機器の活用にはコンピュータやソフトウェアの知識が必要不可欠である。本講座はそのようなニーズに十分応えることができる特色ある講座と確信している。今後も引き続き、最新の情報技術に関する内容を盛り込みながら講座内容を進化させ続けたいと考えている。